

CAMPUS Asia Program
Winter Program at KAIST in Korea
2019/2/2~2019/3/2

東京工業大学 環境・社会理工学院 建築学系 学部3年

1.留学の目的

この留学では、海外の研究室で研究というものに触れる事を第一の目的としていました。私は2019年度早期卒業をし、夏から交換留学をする事を予定しています。しかし今まで専門の内容を英語で勉強したことはなく、研究自身まだ始めていませんでした。この留学では、1ヶ月という短期ながら、本格的な自分自身の研究開始前に自分の専門分野の研究に取り組むことができ、今後の学習計画をスムーズに進めて行くための最良のトレーニングになると考えました。この留学中に英語で専門を学ぶ事に慣れ、研究内容を自分の卒業論文に生かして行くつもりです。まず、研究室に所属し、研究することで専門分野を英語で学ぶ力を身につけます。専門用語や発表で使用すべき英語を身につけられると期待しています。また、論文の書き方、アプローチ法をはじめとした研究方法を学ぶことを目標にしました。

また、KAISTでの開催ということで、最も近くにある国である韓国の文化にふれ、国際的理解を深めることが出来ると期待しています。さらに、winter programは東工大の生徒だけでなく、中国清華大学の学生も集まっています。この機会を生かし韓国だけではなく、東アジア全体の総合的な理解が得られると考えました。この経験を通して、グローバルな異文化を理解した人材に近づけると考えています。

2.日程

	KAIST スケジュール	やった事
2月2日	旧正月休み (韓国の祝日)	羽田→金浦国際空港→ゲストハウス
2月3日		ソウル
2月4日		
2月5日		
2月6日		
2月7日	研究室の正月休み	KAIST 奨学金口座開設
2月8日		釜山
2月9日		
2月10日		

2月11日	研究室・韓国語	研究室説明・韓国語
2月12日	カルチャートリップ	天馬塚、伝統服、ペイント体験 @ギョンジュ（慶州）
2月13日		
2月14日	研究室	研究
2月15日	卒業式	
2月16日	休日	デジョン
2月17日		デグ
2月18日	研究室・韓国語	研究室・韓国語
2月19日	研究室	研究室
2月20日	研究室・韓国語	研究室・韓国語
2月21日	研究室	研究室
2月22日		
2月23日	休日	デジョン
2月24日		ジョンジュ（全州）
2月25日	研究室・韓国語 新学期開始	研究室・韓国語
2月26日	研究室	研究室
2月27日	研究室・韓国語	研究室・韓国語
2月28日	研究室	研究室
3月1日	祝日	デジョン
3月2日	休日	ゲストハウス→金裏国際空港→羽田

3.留学の事務的概要

3-1 留学前の準備

3-1-1 留学情報の入手方法

CAMPUS ASIA 事務局からの情報と、渡航前に当時東工大のプログラムに参加していた KAIST と清華大学の学生との昼食会があったので、そこで現地の情報を仕入れました。また、昼食会では、以前の参加者も来ていたので、そこで話を聞きました。

3-1-2 専門分野・語学の準備方法

私は、自分の専門である建築と共通点のある研究室に所属する予定だったので、出国前に新たに専門分野について学習することはありませんでした。しかし、研究室の詳しい内容に関しては KAIST についてから、PhD の学生の指導の下、調べることになりました。

3-1-3 留学先の研究室探し方

KASIT の research oriented プログラムでは、KASIT の事務の方が私の提出した志望順位に合わせて教授と連絡をとってくれました。ありがたいことに、第一志望の件に所属することが出来ました。

3-1-4 ビザ取得方法

KAIST から送られてくる入学許可証、奨学金の許可証などの書類を持って、韓国領事館にて入国 1 回、3 カ月未満の留学用ビザを申請しました。申請には 3 日しかかからず、日本国籍の場合料金も不要なので直ぐに申請することができました。

3-2 留学費用

プログラム参加費という費用はかかりませんが、韓国は日本よりも若干物価が高く、スーパーでの生鮮食料品は特に高いので、生活費はかさみます。保健に関しては、大学から指定された E コールズの保険（約 1 万 7 千円）に加入しました。また、渡航前に健康診断書の送付が義務づけられ、医師に診断書をもらう必要があります。大学の健康診断を受け忘れた場合、学外で診断書をもらうには 1 万円程度かかるので注意が必要です。

KAIST から 800000w(8 万円程度)の奨学金が支給され、現地に到着してから韓国の銀行口座を解説して奨学金を受け取ります。2 月は頭が旧正月で、長期の休みだったので、引き渡しまでにまでに 2 週間程度かかりました。参加する場合は、はじめに換金を多めに行うことをお勧めします。また、クレジットカードも必須でしょう。旅券は東工大からのサポートがあり、自己負担はありませんでした。寮の費用はどの寮を手配されるかによりますが、私のゲストハウスは 1 ヶ月で 37000 円程度であり、奨学金の 800000w から天引きされます。奨学金だけでは現地の生活に十分ではないので、お金を用意するといいいと思います。

3-3 留学先での住居

KAIST の事務が決めたゲストハウスに住むことになりました。私と、東工大から同時期に参加した中国人留学生 2 人と清華大学の学生の合計 4 人の女子が同じ部屋で生活しました。日本語の話せる留学生とは日本語、そのほか二人とは英語で話して

いました。中国語もできればよかったのには感じましたが、みんな私と話すときは英語を使ってくれたので、楽しく過ごすことができました。ゲストハウスは、キッチン、トイレ、シャワー付きで、リビングとベッドルームがありました。アメニティは KAIST のキャンパスからは 3 km 程度で、公共バスで通学しました。休みの日や正月の連休にはルームメイトと韓国国内旅行に出かけたり、デジョンの街中にご飯を食べに行ったりしました。ゲルトハウス周辺には、あまり店がなく、苦勞しました。

3-4 留学先での語学状況

留学前は TOIEC815、TOEFL77 でした。研究室では英語を使用していましたが、研究室で使用していた資料は日本語で、実際に英語を使うのは作成する書類とプレゼン、lab のメンバーとの会話だけだったので、自分のペースで英語を使うことが可能でした。ただ、やはり込み入った研究の話は上手く話せないことも多かったので、さらなる勉強が必要だと感じました。ルームメイトとも英語で話していましたが、そこに関しては問題ありませんでした。

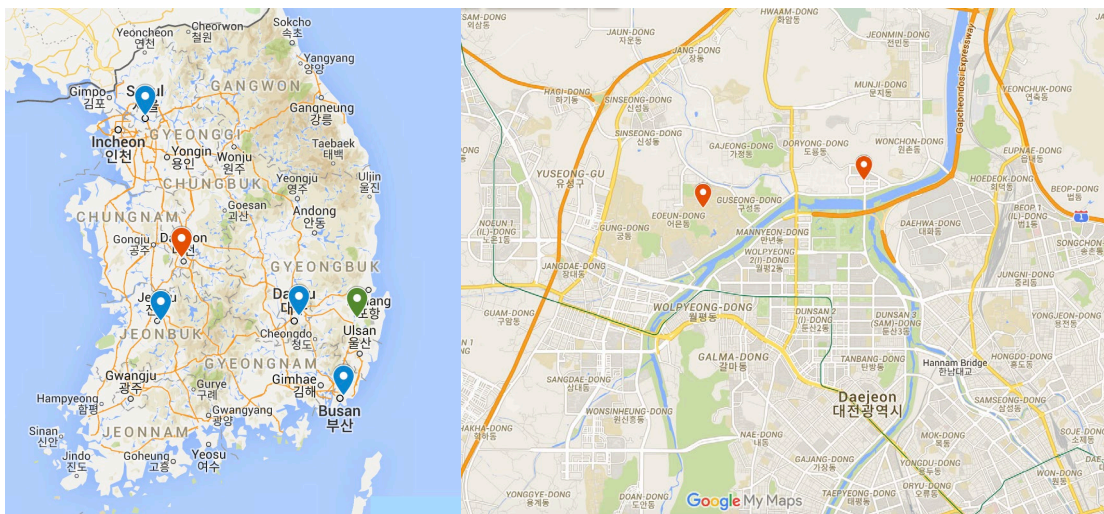
ただ、英語というよりは韓国語の必要性を感じました。研究室には他に留学生というものがおらず、メンバーの会話は韓国語で行われていたので、韓国語はやはり少しでも話せたほうが良かったと後悔しました。また、韓国国内を移動するときや、買い物をするとき英語はほとんど通じません。（一部の観光地では、英語も日本語も中国語もできる店員が揃っています。）バスや電車に乗るときなどに日常レベルの韓国語はやはりあったほうが良いと思いました。KAIST では、韓国語の初級のクラスも履修し、ハングルが読めるようになってから、少しましになったように感じます。ハングルを読むことは日本人にとって難しくないのに、渡航前に読めるようになると良いと思います。

3-5 単位認定

今回の留学はリサーチオリエンテッドだったので、科目の単位申請はできません。しかし、4週間の留学プログラムとして、グローバル理工人育成コースの単位申請を行う予定です。

4. 留学国の概要

4-1 訪問先の場所



4-2 人口

約 5000 万人で、日本の人口の約半分です。国土は日本の 4 分の 1 の面積にあるため、人口密度は 505.3 であり、世界で 13 位に当たります。日本も人口密度は高いことで知られますが、353 で世界 25 位であり、日本よりも高いことがわかります。

また、韓国は日本と違い、まだ人口減少を迎えていませんが、人口増加率は減っており、出生率も下がっています。韓国も日本と同じように、消滅都市としての危険を秘めている国です。



4-3 宗教

仏教が 42.9%、プロテスタント 34.5%、カトリック 20.6%となっています。しかし、歴史的にも儒教の精神が根付いている国であり、年上を尊敬するという文化です。日本のように一つでも上の人には丁寧語を使います。キリスト教徒の多さは街中にいても感じることができます。全ての通りに一つの教会があるほど協会が乱立し、特に夜に



なると協会の十字架が赤く発光するため、協会の多さが目立ちます。この写真は釜山のタワーから撮ったものですが、写り込んでいるだけでも5つ以上あることがわかれると思います。KAISTの大学内にはもちろん協会はありませんが、すぐ隣には協会があります。

4-4 経済状況

2018年	世界ランク	値段
国内総生産 (GDP)	12位	1兆5308億ドル
国民総所得 (GNI)	31位	3万8260ドル/人

国民総生産、国民総所得共に高く、世界的に高水準の経済状況を保っています。どこの街に行っても、道路は整備され、交通の便は整っていて、治安も良好でした。街灯には明かりが付き、浮浪者や、物乞いを見かけることはほとんどありませんでした。

大都市には地下鉄が整備され、どの街に行ってもバス電車でT moneyカードというスイカのようなカードが使えます。国土全体に国鉄系のKTXが張り巡らされ、新幹線のように移動できます。当時レートは100円=970ウォンでした。交通に関しては、日本の6割程度の金額で移動が可能です。しかし、全体的に物価は日本よりも若干高く、バナナはスーパーで4000w、いちごは10000wと、フルーツや野菜は値段が特に高いのが特徴でした。

4-5 政治的特徴

兵役韓国ではすべての成人男性が最低2年間の兵役をすることになっています。20~30歳の間に行うものですが、多くの男性は21~23歳の間に行うそうです。旧正月の時期は至る所で、軍服に身を包んだ兵役中の人たちを見ることがありました。

4-6 文化的特徴

月陰暦を使っており、旧正月を祝います。私が韓国に到着した日は旧正月の祝日の真最中でした。2019年は2/5が旧正月でしたが、正月期間の2/2~2/6の祝日期間になると、多くの店が閉まります。日本の東京の正月よりも多くの店がしまっている印象でした。大田では、実際寮の周りのレストランのほとんどが閉まり、道には人がいませんでした。正月自体は、ソウルで過ごしましたが、ソウルのような大都市に行くと店も開いている印象です。また、正月期間は様々なところで催し物が開かれ、韓国昔ながらの遊びや、舞踊を見ることができました。韓国では、正月には家族が長男の家に集まる習慣があります。そのため、韓国国内で人口の大移動が起き、韓国の新幹線であるKTXや高速バスのチケットは売り切れ、高速道路は渋滞が発生します。

韓国では帰省シーズンは年に二回あり、旧正月の二月と日本でいう十五夜の月見のシーズンである、10月に二回あり、家族が長男の家に集合します。



5.留学先における活動（大学のしくみ、受講科目、学生生活等）

5-1 KAIST の概要



KAIST は韓国の履行分野で最高峰の大学であり、韓国の国立大学です。工学系を中心とする大学で、メインキャンパスは大田にあります。大学院大学として設立されましたが、現在は学部学生もいます。ソウル大学と違い、KAIST では学生に対し、金銭的な支援があり、学費が抑えられることも、KAIST の偏差値をあげている原因の一つでもあります。

KAIST の学部生は、初年度一括して入学し、2年になるときに自分の行きたい学部を選択します。この時、どの生徒も成績に関係なく好きな学科に進学できるため、一番の人気学科である電気では160人程度が一学年にいます。また、KAIST の特徴としてあげられるのが英語の授業システムです。学部1年の時から専門の授業も英語で学びます。

研究室には、学部生の時から所属したい人は所属して活動をすることができます。院生になるとすべての学生が研究室に所属し、研究します。一年感は2学期に分けられ、その1学期分に相当する約半年の期間を使い、学部学生は研究室で卒業論文を書きます。

卒業式は1年に1度行われ、その前1年間で卒業した学部、院、博士の学生が全員集まります。家族もこの日は大学にくるので、賑やかな雰囲気になりました。

5-2 所属研究室

KAIST の都市設計研究室、キムヨンチル研究室でお世話になりました。この研究室は、データの解析やシミュレーションを主に扱う研究室で、政府や企業とも協力してプロジェクトを進めています。私は、研究室で一つの机とパソコンを頂き、そこで作業をしました。

初めの1週間程度は日本における温室効果ガスを削減するための都市レベルでの取り組みを調査していました。これは、現在研究室の持っているプロジェクトの中で海外での取り組み事例を集めていたためです。

その後、今は2020年東京五輪後の日本の都市の作りかたについての提案を作りました。私が研究室にいられる時間は2週間半と短いため、初めは自分自身のトピックを持つのは不可能かと思いましたが、何かやりたいと思って始めた内容です。この内容は自分自身の建築学科の卒業制作にもつながる内容になります。ここで提案を作り、プレゼンをして、先生からは、自分のコンセプトに関してアドバイスを主にいただきました。筋の通った具体的なコンセプトと設計になるように、修正したいと思っています。日本に帰ってから具体的な設計案に取り組み、4月までに設計・図面を完成させる予定です。完成したら、こちらの先生にもデータを送りたいと思っています。



5-3 韓国語の授業

私は今回 Research Oriented Program の形で CAMPUS ASIA プログラムに参加したため、専門の授業は取れませんでした。留学中に取った授業は、韓国語の初級コースです。CAMPUS ASIA として推薦され、教科書も支給されて受講することができました。週に二回月曜水曜の夜、研究室の終わった後3時間の授業を受けました。

5-4 カルチャートリップ

このカルチャートリップは CAMPUS Asia Program の一環として提供されました。同時期に参加した、CAMPUS Asia Program のメンバーである東工大の学生4人と清華大学の学

生2人、KAISTの学生で過去に東工大や清華大学でCAMPUS Asia Programに参加したことのある学生3人の合計9人で慶州に行きました。

5-4-1 スケジュール

12日	大田→慶州 天馬塚、チョムソンデ、アナブチ 韓服体験 韓国伝統民宿
13日	韓国ペイント 慶州→大田

5-4-2 各活動

慶州：慶州周辺は、紀元前1世紀から10世紀に栄えた新羅王朝の都が置かれておいた場所です。新羅時代に作られたと考えられている古墳や墓、仏教関連の遺跡が点在しています。また、この地域は1995年に世界遺産に登録されています。韓国では修学旅行などでよく訪れる名所となっているそうです。

天馬塚：日本でいう古墳のようなもので、王の墓とされています。この墓の中からは、黄金で作られた装飾品や王冠が出土され、その中でも最も有名なものが、ペガサスの描かれが馬具です。そこからこの名前をとって、天馬塚と言われています。この公園の中には、墓が点在し、その中で3つの墓が公開されています。



チョムソンデ：古代城があったときに使われた星を観察するための塔です。この塔は石で作られていますが、建築されてから今まで一度も倒壊することなくその形を残している点が評価されています。



伝統民家：とまったホテルは韓国の伝統的な形式で建てられた民家であり、オンドルで暖房された家の中はとても暖かく、床暖房のようになっています。その上に布団を敷き寝るため、韓国の寒い冬でも過ごしやすかったです。



韓国ペイント：最終日には自分の名前をペイントする体験施設に行きました。ハングルで書かれた文字の上や背景に伝統的な模様がほどこされ、それに着色剤を使用して自由に塗って行きます。



その他所感

まず、今回の留学で研究をしたことのない自分は1ヶ月間で本格的な研究を学べると思っていたのですが、研究はそんなに甘くないということがよくわかりました。私の所属した研究室は都市設計研究室という名前ですが、実際に研究に用いるのは高度なプログラミングやシュミレーションであり、プログラミングもできず、韓国語も分からない私が研究室のメインプロジェクトに携わることはもちろん、手伝えることは不可能でした。

ただ、会話の中で、それぞれの研究内容やプロジェクト内容を教えてもらったり、研究室にいて、状況の変化や研究生活を垣間見ることができたのはよかったと思っています。また、短期間で何かを完成させることはできないながらも、リサーチの手伝いや、自分自身のプロジェクトを進める事ができたのは成果だと思います。

また、プログラム期間中、本当にたくさんの人に助けられてきました。ルームメイトは中国語だけでなく、気軽に私に英語や日本語で話してくれ、一緒に旅行にも行く事ができました。また、研究室のメンバーには期間中本当によくしてもらい、感謝してもしきれません。私が韓国で生活できたのは研究室の先輩方の助けがあったからこそです。生活必需品を買い揃える手伝いをしてくれたり、食事に連れて行ってくれたり、デジョン市内を案内してくれたり、至れり尽くせりでした。自分も何か恩返ししたいと思っています。

このプログラム自体、日中韓の協力があってこそであり、奨学金をはじめとした手厚いサポートの元成り立っています。三ヶ国の協力と、事務局をはじめとする全ての人に感謝しています。